

平成20年3月期
決算説明資料

平成20年5月23日

 川重冷熱工業株式会社

平成20年3月期 決算概要

平成20年3月期の総括



当事業年度の当社の受注高は、空調事業、ボイラ事業共に減少したことにより、前期比11億41百万円減の173億3百万円、売上高は、受注高減少等の影響により、前期比14億11百万円減の171億51百万円となりました。

利益面では、売上高の減少ならびに資材費高騰等の影響により、営業利益は、前期比2億58百万円減の4億9百万円、経常利益は、前期比2億9百万円減の3億77百万円、当期純利益は、前期比1億33百万円減の1億70百万円となりました。

平成20年3月期 損益計算書



金額単位：百万円（百万円未満切捨て）

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
売 上 高	18,563	17,151	92.4%	空調・ボイラ事業ともに減少
売上総利益	4,625	4,325	93.5%	
販売費及び一般管理費	3,957	3,916	99.0%	
営業利益	667	409	61.3%	売上高の減少ならびに資材費高騰の影響
営業外収益	30	19	63.6%	
営業外費用	111	51	46.0%	
経常利益	586	377	64.3%	
特別利益	46	-	-	
特別損失	10	-	-	
税引前当期純利益	621	377	60.7%	
法人税、住民税及び事業税	343	97	28.3%	
法人税等調整額	25	109	-	
当期純利益	304	170	56.0%	

平成20年3月期 貸借対照表



資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動資産	9,812	8,782	89.5%	
現金及び預金	9	32	343.1%	
受取手形・売掛金	7,708	6,625	85.9%	売上高減少に伴う売上債権の減少
棚卸資産	1,706	1,847	108.2%	
繰延税金資産	310	209	67.5%	
その他	77	67	86.7%	
固定資産	4,339	4,206	96.9%	
有形固定資産	1,970	1,851	94.0%	
無形固定資産	223	209	93.8%	
投資その他の資産	2,145	2,145	100.0%	
資産合計	14,152	12,989	91.8%	

平成20年3月期 貸借対照表



負債・純資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

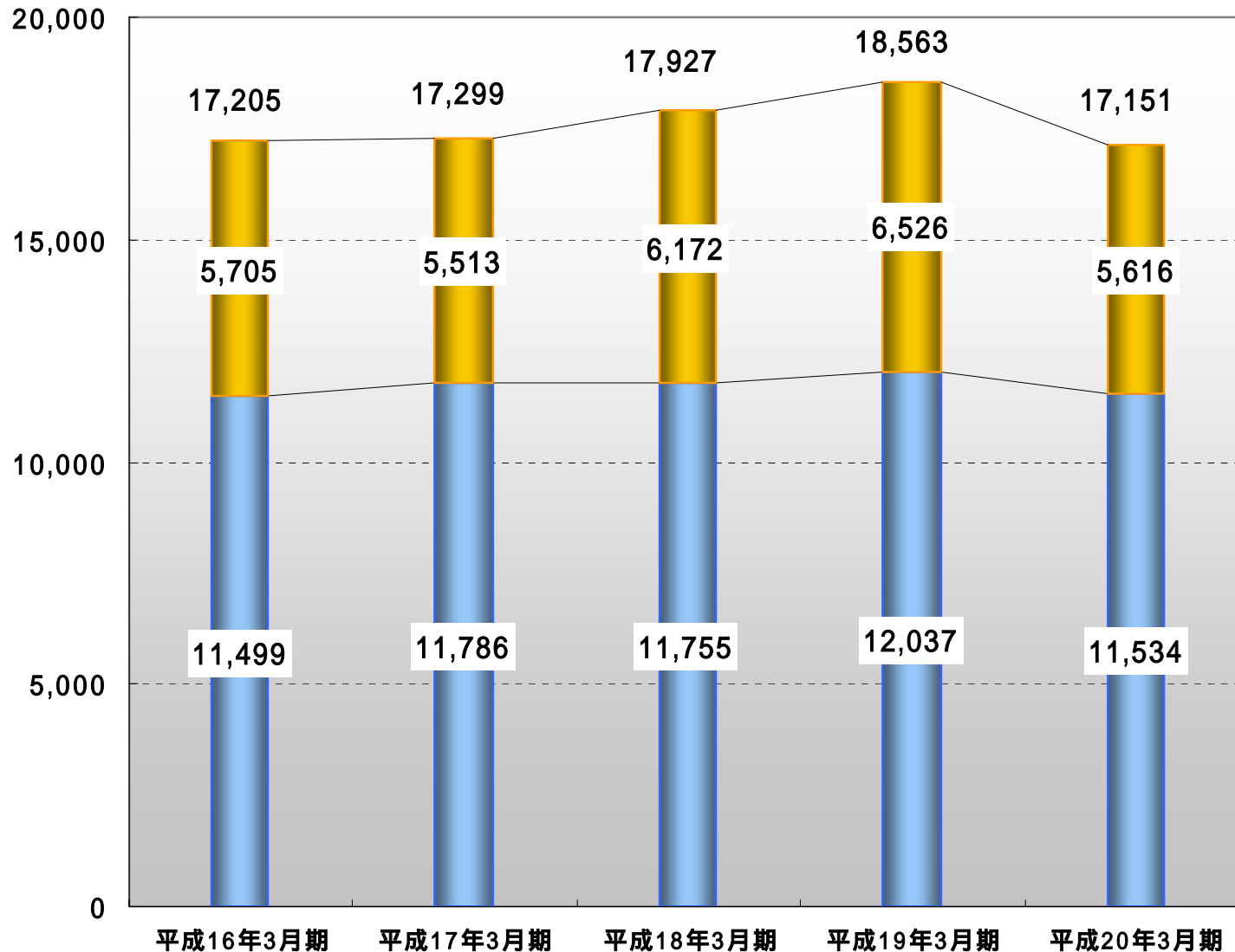
	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動負債	6,769	5,542	81.9%	
支払手形・買掛金	4,715	4,172	88.5%	売上高減少に伴う支払債務の減少
短期借入金	650	267	41.1%	売上債権減少による借入金の減少
前受金	34	50	146.3%	
未払金・設備支払手形	148	109	73.9%	
その他の流動負債	1,221	942	77.2%	未払法人税、賞与引当金等の減少
固定負債	3,139	3,140	100.0%	
退職給付引当金	2,987	2,979	99.7%	
その他の固定負債	151	160	106.1%	
負債合計	9,908	8,682	87.6%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,545	1,615	104.5%	
(内 当期純利益)	304	170	56.0%	
株式等評価差額	20	14	70.1%	
自己株式	10	12	116.2%	
純資産合計	4,244	4,306	101.5%	
負債・純資産合計	14,152	12,989	91.8%	

売上高の推移

(単位:百万円)

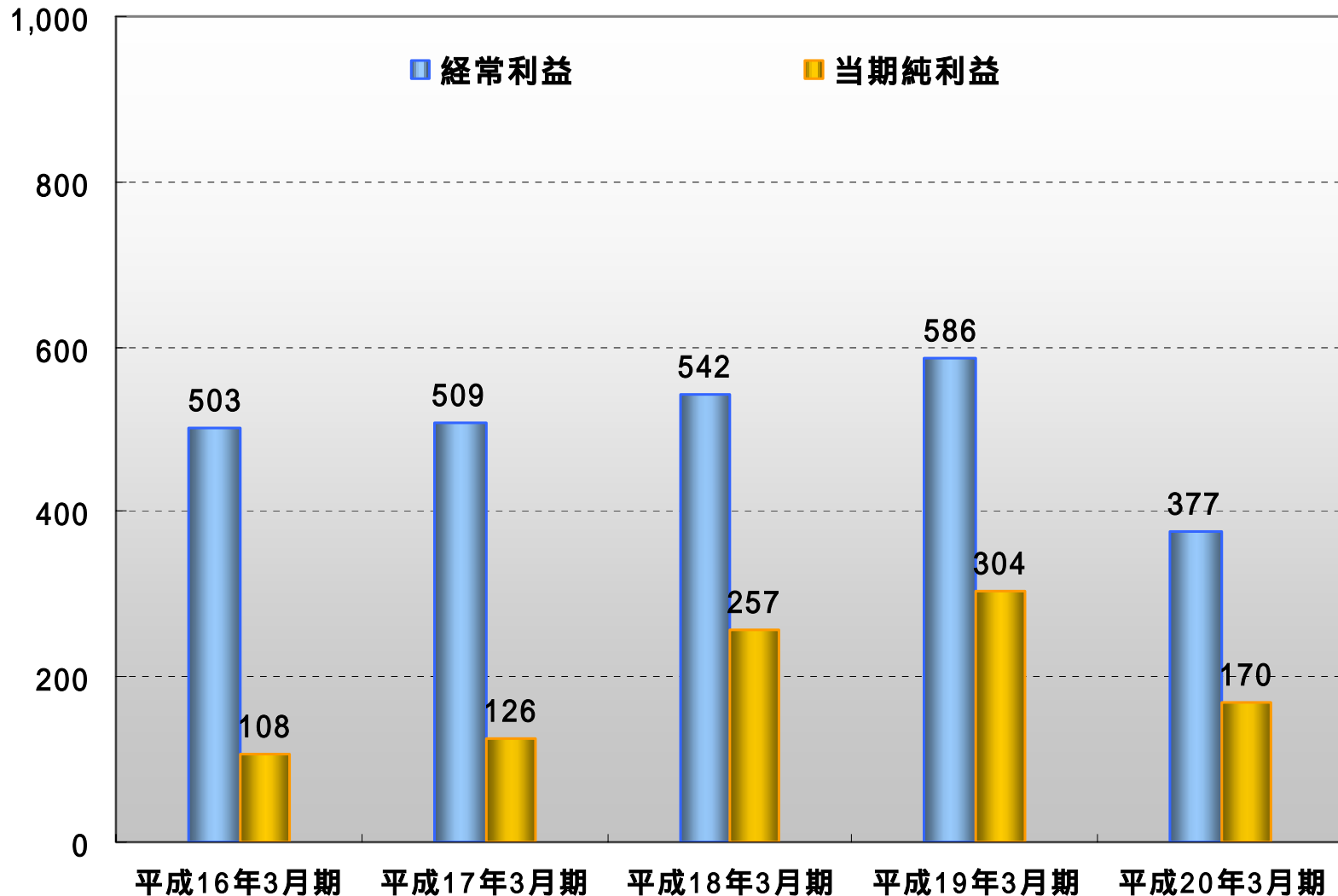
■ 空調事業

■ ボイラ事業



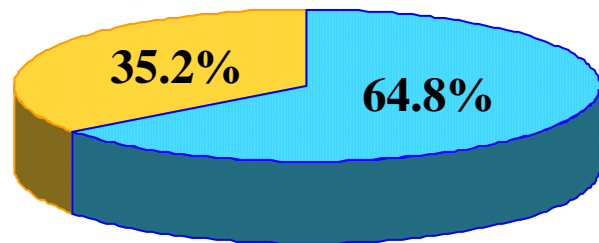
利益の推移

(単位:百万円)



売上高構成比の比較

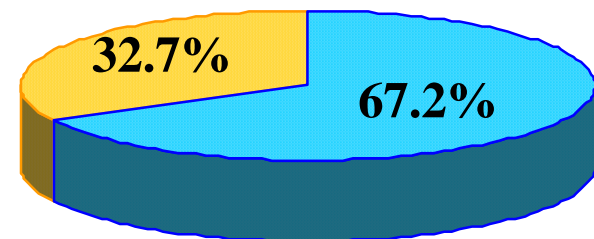
ボイラ事業



空調事業

平成19年3月期

ボイラ事業



空調事業

平成20年3月期

変化要因

ボイラ事業における機器販売が減少が大きかったため、構成比が変化しました。

空調事業

機器本体の売上高は、大規模商業施設等で使用される大型吸収冷温水機とコージェネレーションシステム等に使用されるジェネリックタイプの吸収冷温水機等が減少したため、前期を下回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、オーバーホール等の大口工事が、減少したことが影響し、前期を下回りました。

ボイラ事業

機器本体の売上高は、コージェネレーションシステム等に使用される排熱ボイラならびに大型貫流ボイラ等が減少したことにより前期を下回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、省エネ改造等の工事と年間保守契約が増加したため、前期を上回りました。

平成21年3月期 業績予想

平成21年3月期の業績予想



金額単位:百万円(百万円未満切捨て)

	当 期	来 期(予)	前 期 比	備 考
売 上 高	17,151	18,000	104.9%	
空調事業	11,534	11,700	101.4%	
ボイラ事業	5,616	6,300	112.2%	
営業利益	409	435	106.3%	
経常利益	377	400	106.0%	
当期純利益	170	180	105.5%	

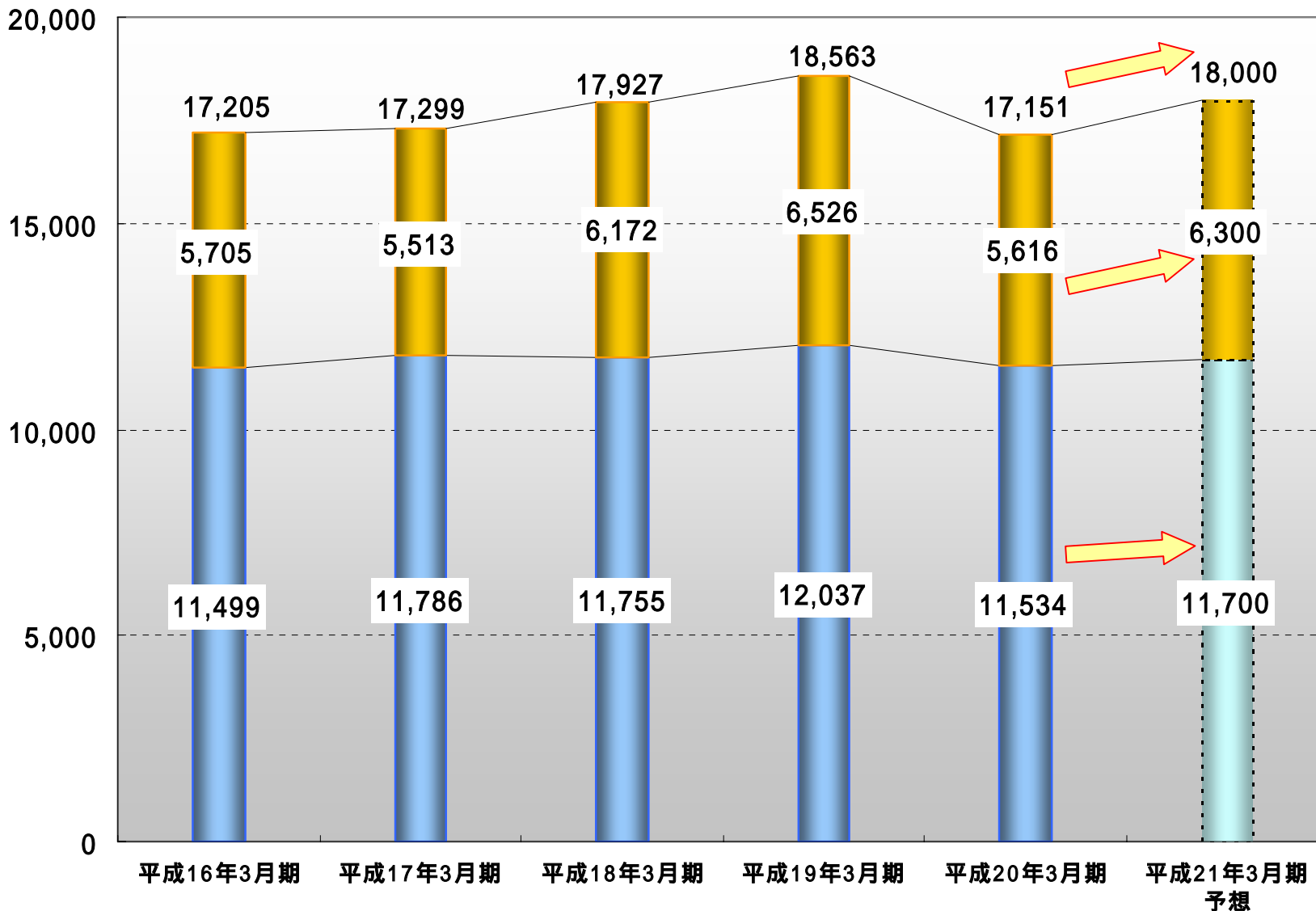
売上の推移(予想)



(単位:百万円)

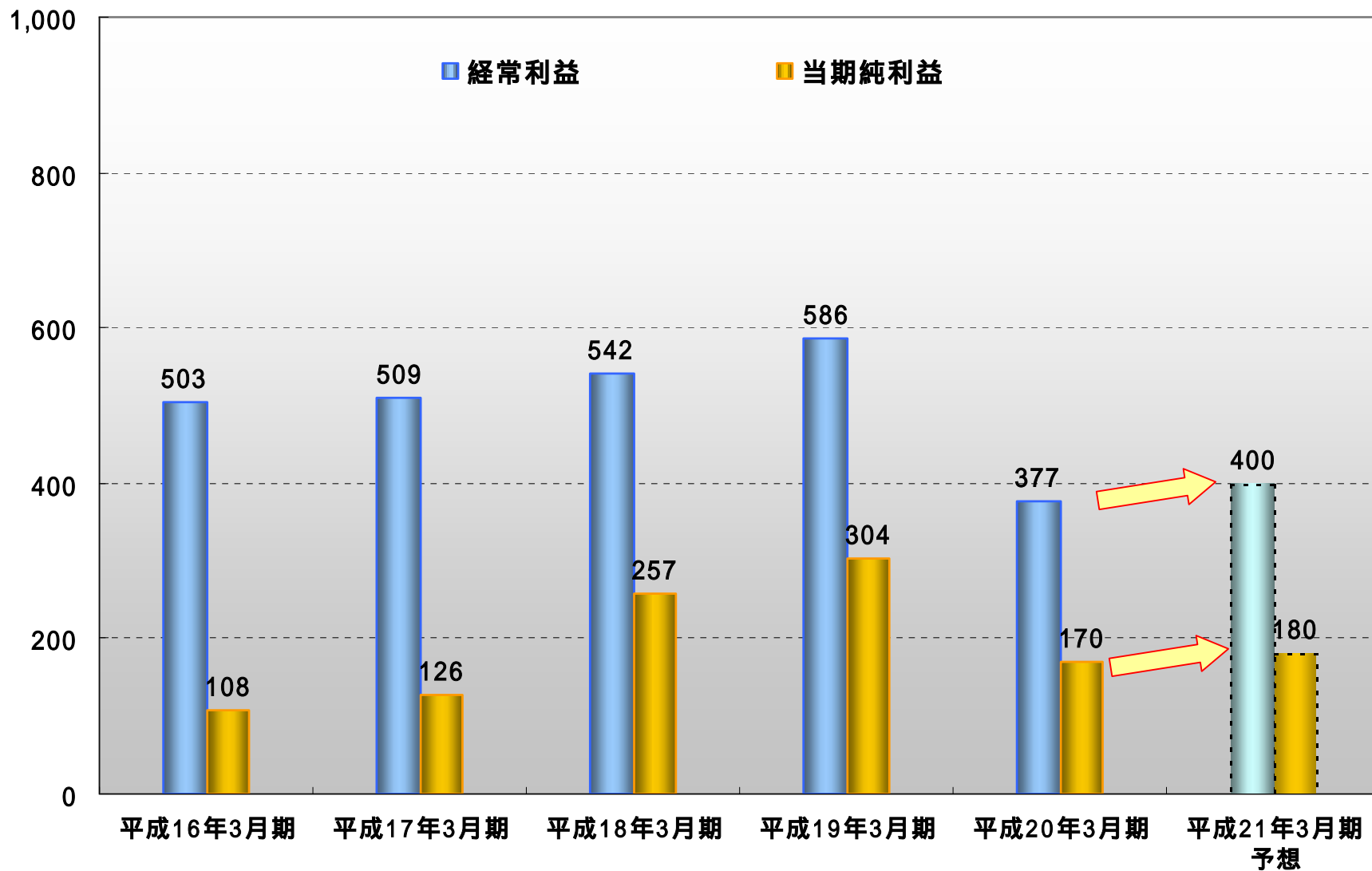
■ 空調事業

■ ボイラ事業



利益の推移(予想)

(単位:百万円)



空調事業

機器本体は、東京ガス、大阪ガス、東邦ガス3社が運営する「吸収式グリーン制度(05基準)」によりグリーン機に選定された シグマE-ス1.43シリーズと三重効用吸収冷温水機により省エネルギー性を訴求し、拡販に努めます。

24時間遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメンテ」の活用および当社独自で開発した省エネルギー設備「イコップセイバー」により積極的に省エネルギー提案を行い、引き続き改修改造工事・メンテナンスの拡大に努めます。

ボイラ事業

大型貫流ボイラ「イフリート」の制御性の特長、省エネルギー性に加え、前事業年度に市場投入した、低NOxシリーズにより環境性の面からもPRを行い、拡販に努めます。

改修改造工事・メンテナンスは、引き続き、既設機器の省エネルギー改造を中心とした工事増ならびに年間保守契約の獲得向上を目指してまいります。

参 考

当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、環境性を考えて今後も省エネルギーおよび余剰エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われます。また、銅管、鋼材をはじめとする資材費の高騰により利益が圧迫され、利益確保の厳しい状況が続くと思われます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がないと思われます。

空調・ボイラ業界共に総需要は、景気に左右される傾向があり、新規需要に代わり、リプレース需要が増加してくると予想されます。

本資料に関する問合せ



川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。